



上智大学創立 100 周年  
上智短期大学創立 40 周年  
上智社会福祉専門学校 50 周年



## 創設者 ペトロ・ハイドリッヒ SJ

No. 5

### 1. 上智社会福祉専門学校とハイドリッヒ神父

上智社会福祉専門学校の起源は、ペトロ・ハイドリッヒ神父によって 1964 年に創設された上



社会福祉専門学校の生みの親であるペトロ・ハイドリッヒ SJ

智大学社会福祉専修科である。日本が高度成長期に向かう時期に、急激な経済成長から取り残されて、苦しんでいる多くの人たちがいた。こうした問題を学問的に研究し、同時に支援する専門職の養成こそが、カトリック大学である上智大学の使命であると神父は確信していた。しかし当時は誰も見向きもせず、孤軍奮闘の戦いであった。大学の関係者はもちろんのこと、文部省、厚生省、東京都そして社会全体にその必要性を強く訴えかけ、教員の招聘、教室の確保、厚生省への認可申請など困難な仕事を「意志ある所に道あり」というモットーで克服して行った。最初、社会福祉専修科は、保育士と社会福祉主事の両方の資格が取れるコースを設置した。1966 年に上智社会福祉専修学校となり、1977 年に上智社会福祉専門学校へと発展していった。

### 2. 上智社会福祉専門学校と上智大学の関係

ハイドリッヒ神父のもう一つの使命は上智大学の中に社会福祉学科を開設することであった。プロテスタント系の多くの大学が、すでに社会福祉学科を持ち、そこでキリスト教社会福祉の研究と、キリスト教ソーシャルワーカーの養成を行っていた。神父の祖国ドイツでも、カリタス社会福祉事業団という大規模なカトリック団体が教会と協力して、全国に病院や社会福祉施設を展開し、職員を養成するための専門学校や研究所をつくり、活発に活動していた。

1966 年、文学部社会学科の中に社会福祉コースがつくられた。そのために神父は優れた教授陣を集めた。日本の生活保護研究の第一人者である籠山京氏、ソーシャルワーカー養成に卓越した才能と情熱をもつ松本栄二氏などを招聘した。神父自身は社会倫理や哲学、カトリック神学を基礎にした社会福祉の理論と実践を学生に講義した。そして 1976 年に社会福祉学科として独立した。上智社会福祉専門学校は、一部の専門学校教員を除いて上智大学教職員の兼任であり、学生間でも、大学を卒業してから専門学校に入学して資格を取得、専門学校を卒業して大学院に進学するなど互いに協力し合い、緊密に連携し合って今日に至っている。



### 3. 社会福祉専門学校の実習施設

1965 年 8 月 15 日、東武伊勢崎線の足立区梅島駅から徒歩 10 分の所に、上智社会福祉専修学校の実習施設、保育所「うめだ『子供の家』」を開設した。400 坪の用地購入のために、ハイドリッヒ神父はドイツのケルン教区から寄付を得た。保育所は上智大学附属保育

園となり、初代の園長は上智学院理事長ピオヴェザーナ神父が就任した。

この保育所ではイタリアのモンテッソーリ教育を取り入れたため、反響は大きかった。当時はそのような方法を取り入れた施設がなかったので、日本全国の保育園や幼稚園の先生が見学や研修に訪れ、モンテッソーリ教育が教育や福祉の分野で広く知られるようになり、さらにこの「うめだ『子供の家』」から多くの優秀なモンテッソーリ教師が



社会に送り出され

ることになった。

その後、上智大学公

開学習センターの中に「上智モンテッソーリ教員養成コース」が置かれるようになり、全国的組織としての「日本モンテッソーリ協会」も結成された。この養成コースとモンテッソーリ協会の発展には上智大学教育学科教授ルーメル神父の功績が大きい。



うめだ『子供の家』全景

#### 4. 障害のある子どもたちに希望の光を

保育所「うめだ『子供の家』」は働く母親に必要な施設として地域社会から認められ、その評価が高まった。一方で、就学前の同じ年齢の子どもでありながら、視覚障害、ろうや難聴、脳性まひや自閉症、ダウン症などの子どもたちは、保育園や幼稚園に入園することができずに苦しんでいた。そうした子どもたちのための「通園施設」を作るため、ハイドリッヒ神父を先頭に、上智社会福祉専門学校の学生や卒業生、教職員、うめだ「子供の家」の教員、父母、地域の子どもたちが参加して、3年間、銀座と有楽町で街頭募金を行なった。そして1977年に「うめだ・あけぼの学園」が誕生した。



現在の「うめだ『子供の家』」(上)と、「うめだ・あけぼの学園」(左)とハイドリッヒ神父記念館(左手前)

あけぼの学園は日本で初めての0歳から6歳までの早期診断、早期療育、モンテッソーリ教育に基づくインテグレーションを行う通園施設(療育センター)として、パイオニア的な役割を担うことになった。建物は保育所うめだ「子供の家」と、区立の公園を間に挟んで相対するように建てられていて、二つの姉妹園の園児たちは頻繁に行き来して交流することができた。最初の園長はハイドリッヒ神父が就任し、多くの職員をドイツやオーストリアなどに派遣して育成し、子どもたちと

家族のために何ができるかを真剣に考え、その実現のために全力で立ち向かった。